

2014年5月12日

(本資料は、ロンドンにて2014年5月8日付で配信した発表資料の参考訳です)

スタンダードチャータードPLCは、5月8日付で、2014年度第1四半期に関する中間経営ステートメント(IMS)を発表いたしました。

当行グループ最高経営責任者ピーター・サンズのコメントは、以下のとおりです。

「やや厳しい外部環境にもかかわらず、当行グループは、コスト・リスク・自己資本の厳格な管理の徹底により、お客様のさらなる成長を引き続きサポートしております。2014年度のこれまでの業績は、経営見通しに沿って推移しています。当行は1月に発表した組織改編を、4月1日付で実施しました。改編により、新しい経営戦略に基づくグループの経営基盤の拡充・強化を一層進めてまいります。」

当行の2014年度第1四半期に関する中間経営ステートメントには、年間約3億5,000万米ドルに上ると想定されるイギリスの銀行税と自己クレジット調整(OCA)の影響は反映されていません。本レポートの対象期間である2014年度第1四半期に対する「前年同期比」(パーセンテージ)は、特に断りのない限り、2013年度第1四半期との比較を指しています。

2014年1月、当行は4月1日付の組織改編を発表しました。2014年第1四半期に関する本業績レポートでは、同年3月31日までの組織形態を反映しています。

## グループ

2013年に始まった困難な市場環境は、2014年第1四半期、さらに第2四半期の4月、5月に入っても続いています。現在のビジネスモメンタムそのものは2013年度下半期を上回っていますが、2014年第1四半期のグループ収益は、インドルピー・インドネシアルピアを中心とする現地通貨安による影響を受け、予想通り前年同期比で1桁台前半の減少となりました。為替変動の影響を除いて見ると、グループ収益は若干増加しています。利鞘は安定してきましたが、依然として収縮したままです。金融業界全般が引き続き厳しい環境に置かれているため、特に金利を中心とするフィナンシャルマーケット事業への影響が続いています。

地域別では、いくつかの市場で広範な成長が見られましたが、そのプラス効果は、他の市場、中でも韓国の業績不振によって、相殺されました。韓国では現地事業の再建を進めていることから、前年同期比で約1億1,000万米ドルの減収を計上しました。韓国を除くと、グループ収益は前年同期比で横ばいでした。

費用は、引き続き厳格に管理された結果、前年同期比では横ばいにとどまりました。

クレジットコストは1桁台前半の増加となりましたが、今後の圧力増加傾向は予想していません。

以上の結果から、グループの第1四半期営業利益は、予想通り1桁台後半の減少となりました。為替変動の影響を除くと、グループ営業利益の減益幅は1桁台半ばにとどまりました。

顧客向け貸付金については、引き続き顧客サポートに力を入れた結果、2013年末比で1桁台前半の増加と統制のとれた形となりました。グループのバーゼルIII自己資本比率規制に伴うリスク加重資産の伸びは、顧客向け貸付金の増加に概ね沿うものとなっています。

当行のバランスシートは引き続き盤石で、流動性が非常に高く十分に多様化され、高い自己資本比率を堅持しています。2014年3月21日、スタンダードチャータードPLCは、30年物のバーゼルIII (Tier2)適格劣後債20億米ドル相当を、成功裏に起債しました。これにより、グループの自己資本と、損失吸収力を高めるために必要な資本基盤がさらに強化されました。

#### コンシューマーバンキング部門

コンシューマーバンキング部門の収益は、1桁台半ばの減少となりました。これには、同部門が継続して行った選択的リスク軽減策と、前述した韓国におけるさらなる再建策の影響が反映されています。

同部門のクレジットカード・個人ローン・住宅ローンの収益は、前年同期比で1桁台半ば減少しました。預金収益も、当行の進出先市場全体における競争激化を反映し、1桁台半ばの減少となりました。ウェルスマネジメント事業の収益は、前年同期比は1桁台前半の減収でしたが、2013年下半期のランレートとの比較ではプラスとなっています。その背景には、投資家のセンチメントの改善、特に香港での好調な業績があります。

費用は引き続き厳格に管理されており、1桁台前半の削減を達成しました。投資資金確保のために、経常費用は常に厳しく管理されています。

コンシューマーバンキング部門のクレジットコストは、前年同期比で1桁台前半の増加でしたが、2013年下半期の四半期ベースランレートの範囲内でした。今後については、2013年度末の水準からの横ばいが続く見通しです。

コンシューマーバンキング部門の第1四半期営業利益は、10%台後半の減少でした。厳しい環境が続く韓国を除くと、同部門の営業利益は1桁台前半の増加となります。

## ホールセールバンキング部門

ホールセールバンキング部門の収益は、前年度比で横ばいでした。同部門の顧客取引に伴う収益は、顧客需要の順調な増加を反映し、1桁台前半の増加を計上しました。しかし、フィナンシャルマーケット事業の低迷が続いた結果、自己勘定収益は減少しました。

トランザクションバンキング事業の収益は、前年同期を1桁台前半ほど下回りました。キャッシュマネジメント・トレードファイナンスの平均バランスは、前年同期比はプラスでしたが、バランスシート全体の利益率最適化を進めた結果、年初来では減少となっています。キャッシュマネジメントの利鞘は2013年末につけた水準で安定しています。一方、トレードファイナンスのマージンは前年同期の水準を割っていますが、複数の市場で改善が見られました。

コーポレートファイナンス事業は引き続き好調な業績を上げ、前年同期比は1桁台後半の伸びでした。対象案件数は高水準が続いています。フィナンシャルマーケット事業の収益は前年同期比で約16%の減少となりましたが、2013年末以来の厳しい市場環境が2014年第1四半期も続いたことが主な要因でした。顧客収益は、キャピタルマーケット・外国為替取引が増収、金利取引が減収だったことから、全体としては横ばいでした。フィナンシャルマーケット事業の自己勘定収益は、金利・外為の減収が続いたことから低迷が続きました。

ALM収益は発生金利収益を計上したことから、前年同期比で大幅に増えました。

プリンシパルファイナンス事業の収益は、2013年末から繰り越しになっていた取引の完了を受け、増加しました。

ホールセールバンキング部門の費用は前年同期比で1桁台前半の増加となりましたが、顧客収益の増加率と概ね同じ水準でした。

資産の質は、欠損率が予想通り低い水準に止まり、健全性が維持されています。「アーリーアラート」(要注意先早期区分)債権の水準は2013年末と変わらず安定しています。新たな財務のストレス要因は存在していませんが、国別では特にインド、全体的では商品(コモディティ)のリスクについて、引き続き注意してまいります。

以上のようなダイナミックな動き、横ばいの収益、費用の厳格な管理の結果、ホールセールバンキング部門の営業利益は1桁台半ばの減少となりました。

次期業績予想については、6月下旬の発表を予定しております。

詳細につきましては、以下の担当者へご連絡ください。

James Hopkinson, Investor queries +44 (0)20 7885 7151

Sarah Lindgreen, Media queries +44 (0)20 7885 8764

日本語でのお問い合わせは下記にて承ります。

スタンダードチャータード銀行

コーポレート・アフェアーズ部

Tel: 03-5511-1245 / Fax: 03-5511-9311

[CA.Japan@sc.com](mailto:CA.Japan@sc.com)

-----  
本資料に記載の「今後の見通し」については、現時点での予測・意見、もしくは将来予測されるイベントに基づき作成されたもので、その適時性・実現性を保証するものではありません。また、本資料には、「予測」「目標」「見通し」「傾向」「計画」「目標」「評価」「意見」「可能性」他、それに類似する表現が使用されていますが、このような表現を含む各種見解・見通しについては、今後の経済動向や市場環境等の変化に対応して当行の業績・計画・目標を変更する場合もあり、その正確性もしくは完全性に関していかなる責任も負わないものとします。また、本資料は、信頼性の高い過去または現在の情報に基づき作成されていますが、将来における結果を示唆するものないことをご了解ください。更に、当資料中のコメントは作成日現在の当行の判断を示したものであり、将来のイベントや情報により内容に変更がある場合にも、当行はそれに対する責任を負わないものとします。